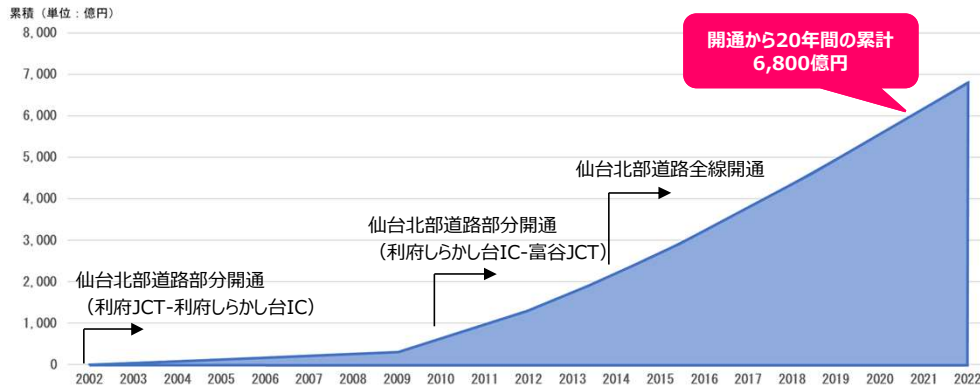


2 仙台北部道路の 整備効果

地域経済の発展を支援する 仙台北部道路

仙台北部道路の経済波及効果※は
開通から20年間で **約6,800億円** にのぼる

■ 仙台北部道路の累積効果（2002～2022年）



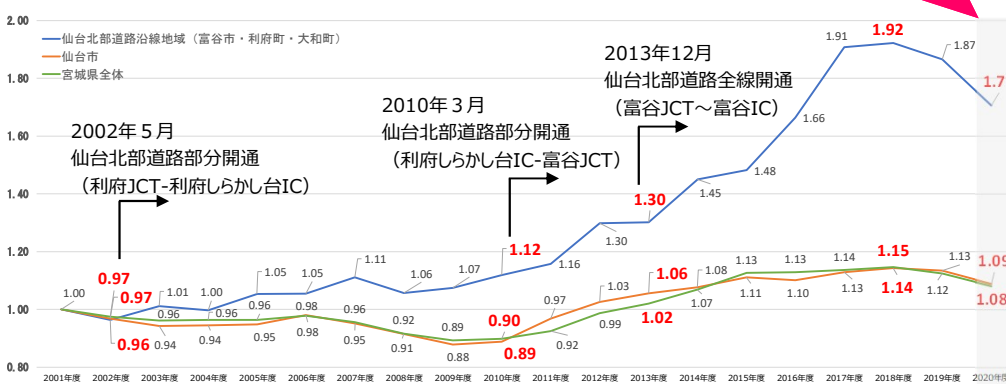
※経済波及効果について

道路整備による地域間の時間短縮効果もたらす企業活動の生産性向上、設備投資等の経済活動の関係をモデル化した地域計量経済モデルを用い、仙台北部道路の整備あり・なしによる地域間の時間短縮効果から、仙台北部道路が存在することによって想定される過去20年間（部分開通時の2002年から全線開通を経て直近の2022年まで）の経済波及効果を算出。

～ 仙台北部道路沿線地域（富谷市・利府町・大和町）の総生産額が大幅に増加 ～

- 仙台北部道路沿線地域（富谷市・利府町・大和町）の総生産額は、仙台北部道路が部分開通した2002年度以降、近接する仙台市及び宮城県全体を上回る伸び率を記録、2010年度以降の相次ぐ企業進出等の影響で右肩上がりに上昇し、宮城県の経済を支えている。

▼ 仙台北部道路沿線地域の市町村内総生産伸び率推移（2001年比）



出典：宮城県市町村経済計算 長期時系列データをもとに作成

仙台北部道路沿線で 効果を実感



富谷市長

若生 裕俊 氏



利府町長

熊谷 大 氏

富谷ICが2013年12月に供用され、仙台北部道路が全線開通となって10年が経過しました。仙台都市圏高速環状ネットワーク（ぐるっ都・仙台）の北側の東西区間を形成している仙台北部道路が、企業の進出や人口の増加など、富谷市の発展の一翼を担っていただいていること、大変感謝しております。

富谷IC付近の高屋敷工業団地では、大規模会員制倉庫店や、ファインセラミックス製品の工場等が立地し、隣接する高屋敷西地区においても、新たな工業団地の造成が進んでおり、今後更なる企業立地が予定されております。

当市に近接する仙台北部中核工業団地や大和リサーチパークといった大規模工業団地においても、物流や通勤の面で仙台北部道路は欠かせないものとなっております。

また、富谷IC周辺の住宅地では行動範囲が広域化し、通勤や買物の利便性が向上することで、人口の増加にもつながっております。

今後は、仙台北部道路の4車線化の整備促進や富谷JCTのフルジャンクション化の早期事業化など、更なる高速道路ネットワークの機能強化及び充実を図っていただき、当市が目指す「住みよくなるまち日本一」の実現に貢献していただけることを期待しております。

仙台北部道路の全線開通10周年、誠にありがとうございます。2010年に本町の利府しらかし台ICの利用開始、そして2013年には仙台北部道路の全線開通に伴い、大きな整備効果があったと実感しているところです。顧みますと、2001年の新世紀・みやぎ国体、2002年FIFA日韓ワールドカップの会場である宮城スタジアムへのアクセス道路として利府JCT-利府しらかし台IC間の5.2kmが先行開通されたのち、富谷ICまでの開通となる約10年の歳月は、仙台都市圏にとって非常に長く感じられました。

未曾有の大災害である東日本大震災に見舞われましたが、宮城県総合運動公園が自衛隊や消防、警察の活動拠点及び集配拠点となったことから、仙台北部道路が命の道として大きな役割を担い、その後の復旧・復興の下支えになったものと実感しております。

また、観光・産業面においても、仙台北部道路は大型商業施設や宮城県総合運動公園など県内主要観光地への接続拠点となっており、各種コンサートや東京オリンピックサッカー競技大会など国内外の大規模イベントが開催され、多くの人が利府町を訪れたほか、新規の工業団地が整備されるなど産業、観光、生活基盤とあらゆる面で地域活性化の一助となっております。

仙台北部道路は仙台都市圏域には欠かせない重要な道路であることから、現在進められている4車線化工事について、さらなる利便性の向上が図られ、地域活性化への貢献に寄与していくことを期待しております。